
リトルバスターズ！ あの素晴らしい（２１）をもう一度

ユウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リトルバスターズ！ あの時晴らしい（21）をもう一度

【Nコード】

N4974S

【作者名】

ユウ

【あらすじ】

リトバスSS三作目！

リトバス男メンバーどものバカ話です

（前書き）

石田さん、というキャラが出てきますが男子寮長です
オリキャラではありません

名前がないと不便ですし声優からってことで

うきゃきゃきゃきゃきゃきゃきゃきゃきゃきゃ！！
理樹！謙吾が錯乱したぞ！
いつものことじゃん・・・

あの素晴らしい（２１）をもう一度

「おい理樹」

「ん？どうしたの恭介」

僕の部屋に四人でたむろしていた日曜日の正午前。
恭介が声を掛けて来る。

「スクレボ読まないか？」

「遠慮しとくよ・・・」

宿題忙しい上に筋トレをし続ける二人に混ざって漫画を読むなんて
考えただけで卒倒しそうだ。

「なんで即答なんだよっ！」

「いや、宿題忙しいから」

暴れまわる恭介をスルーして目の前の命題に取り掛かる。
うーん、ベクトルかぁ・・・

「じゃあ俺が宿題手伝ってやるよ」
本末転倒だ。

「えっ、マジか？」

「おまえのは知らん」

「ひでえな」

「俺は理樹が大好きだからなっ」
爽やかに歯を見せて笑う恭介。

いや、堂々とゲイ宣言されましても・・・

「うおーっ！ジェラシーっ！！」

嫉妬しないですよ・・・

「しかたねえ、理樹が遊んでくれないから俺たち三人で遊ぶぞ」

「ほう、それはどんな遊びなんだ？」

「おい謙吾っち、早いぞ」

「しまったあゝ・・・」

・・・ツッコミどころが多すぎる。

「じゃあ、俺が考案した（２１）（２１）さんが萌え萌えだったでもするか」

・・・うわあ。

「すげえ恭介、聞いただけで鼻血が出そうだ」

「それはどんな遊びなんだ？」

大丈夫。これは夢だ。

親友二人が（２１）に目覚めているわけがない。これは悪い夢なんだ。

「まず鬼が壁に向かう」

「なるほどな」

「そして鬼は言う、『（２１）（２１）さんが萌え萌えだった』とな」

「ほう、それで？」

どうしてノリノリなんだよ・・・二人ともノーマルだったはずですよ・・・

いや、巫女とかメイドがノーマルかどうかは知らないけど。

「そついい終わった地点でプレイヤー、つまりお前達が（２１）っ娘が言うと思わず萌えてしまう台詞を言うんだ。鬼が萌えたらセーフ、萌えなかったらアウトだ。まっ、あとはだるまさんが転んだの要領だな」

「すげえ、なんて奥のふけえゲームなんだ・・・」

「早速遊ぶぞ！ひゃっほーうつー！！！」

だめだこの人たち・・・

そのまま三人は（２１）（２１）ハンターズ最高！とか叫びながら

廊下へと出てしまう。

まさか廊下でやるのか・・・

だめだだめだ、集中しないと。

今年から僕は受験生だろうが。

「行くぜーっ、（21）（21）さんがー萌え萌えだった！！」

恭介の元気な声が廊下に響く。

鬼は恭介のようだ。

「シュチュエーション。雨の日にて、まだ幼さの残る近所の幼馴染と」

今度は真人の野太い声が聞こえてくる。

「相合傘しよっ」

「ぐふっ」

いや、真人の声で言われても全然萌えないんだけど・・・

「せ、セーフだ・・・」

「うひょっ」

いいのか恭介、それでいいのか・・・

「シュチュエーション。放課後の部室、女子の後輩マネージャーと」

こんどは謙吾のよく通る声。

やめて謙吾、よく通る声でそんなこと言わないで・・・

「せ、先輩・・・タオルどうぞ・・・」

「ごはっ」

嘘でしょ恭介・・・

「文句なしでセーフだぜ・・・」

嘘だって言つてよ・・・

「じゃ行くぞ。（21）（21）さんがー・・・」

「おや、棗君。何してるんだい？」

こ、この神秘的な声は石田さん？

「おお石田か。ちよつと（21）（21）さんが萌え萌えだったに興じていたんだ」

「（21）・・・は？」

そつだよ石田さん！それが普通の反応だよつ。

それを待つていたんだと心の中で歡喜する。

「つまりな、かくかくしかじかのへぎょー」

「へえ、なかなか面白そうだね」

・・・は。

「俺も混ぜてくれないか？」

「もちろんだぜ！」

はは・・・嘘だよね石田さん・・・

「じゃ、氣を取り直して・・・（21）（21）さんが萌え萌えだった！」

今度は早口で言う恭介。

「シユチュエーシヨソ。夏休みの海にて、服のまま海に落とされたすこし垢抜け始めた幼馴染の妹と」

やめて石田さん。そんな具體的なこと言わないで。

「ああーん、ビチヨビチヨだよ。〇〇君のいじわるう」

「が、がはあつー！」

クリティカル！？ストライクなの恭介！？

「なるほど、さりげなくお色氣も入れてくる・・・レベルたけえな石田さん・・・」

「鬼の守備範囲ど真ん中をきっちり狙つてくるとは只者ではないな・・・」

どうしよう、変態が僕の部屋の前に四人も居る。

「あら、恭介さんに石田さん。それにバカ二人も。一体どうしたんですか？」

この声は佳奈多さん？佳奈多さんなんだね！

「どうしたのつてお前こそなんで男子寮にいるんだよ」

「私は直枝に用事があるんです。それよりも私の質問にも答えてくれませんか？」

語氣をすこし強めている。

「ああ、ちよつとみんなで遊んでたんだよ。理樹なら部屋にいるぜ」

「ありがとうございます。程ほどにしておいてくださいね」

そんなやり取りが聞こえてきたあと、直ぐに部屋にノックの音が響く。

「直枝、ちょっといいかしら？」

ああ、普通の人の声だ。普通の佳奈多さんの声だ！

「はいー！！」

嬉しさのあまりスキップしそうになってしまう。

「どうしたの直枝、やけにうれしそうだけど」

「うん、佳奈多さんが来てくれてとっても嬉しいよ！」

「あ、あらそう？そそそれはよかったわね」

顔を赤くする佳奈多さん。ああ、普通の人が居るのがこんなに嬉しいことだとは。

「それでどうしたの？」

「ああ、ちよつと数学と音楽で教えて欲しいところがあるのよ。それとハイこれ」

佳奈多さんからきれいにラッピングされた小さな包みを渡される。

「これは？」

「はっ、葉留佳にクッキー作ってあげただけど多めに作りすぎちゃったからお裾分けよ」

「へえ、ありがたくいただいておくよ。中に入る？嫌だったら学食とかでもいいけど」

「いいわよここで。私が迷惑かけてるんだし」

「そう？じゃあむさ苦しい部屋ですけど・・・」

「失礼するわ」

ドアを開けて佳奈多さんの中へ入れる。

「珍しいね、佳奈多さんが数学訊きにくるなんて」

「どうしても分からないところがあるのよ。あなた数学得意でしょ？」

佳奈多さんはちゃぶ台に座りつつ分厚い参考書とノートを広げる。

「ここなんだけど・・・」

僕も向かいに座って参考書を覗き込む。

「ああここはまず三角関数を応用して・・・」

とき方を順を追って説明していく。

「あ、このとき方が間違ってたのね」

「そうみたいだね。後は大丈夫？」

「ええ、やつとわかったわ。ありがとう」

につこりと笑う佳奈多さん。

よく考えたら佳奈多さんの顔がものすごく近くにある。

爽やかなミントの香り。

やつぱり佳奈多さんってめちゃくちゃ可愛いよなあ。

こんなに頭良くて可愛い娘と僕が寮長なんてぶっちゃけ釣り合っていないでしょ。

「ん？直枝どうかした？」

「いや、佳奈多さんって可愛いよなあーって」

って何言ってたんだ僕！？

「へっ、へっ！？」

うわあ、佳奈多さんめめちゃくちゃ錯乱してるし。

僕なんかそんなこと言われても嬉しくないよなあ。

「えっと・・・その・・・」

「（21）（21）さんが萌え萌えだった！」

「ひいいやつほう！！（21）（21）ハンターズ最高っ！！」

「（21）（21）旋風だ！！」

「（21）星ッ！！」

うわあ、完全に忘れてた。

佳奈多さん完全に表情凍ってるし。

「何なのあの人たちは一体・・・」

「僕に訊かないで・・・訊かないでよ・・・」

わなわなと震える彼女に泣き言を言う僕。

そして廊下には変態軍団。

「はあ、まったく仕方ないわねえ・・・」

あれ、怒ってない？

「ムードはぶち壊しだけど、こうじゃないと私達らしくないものね」
さっきまで怒っていたはずの佳奈多さんは、あのとき、僕達と逃げ出したときのような満面の笑顔を浮かべていた。

f i n

（後書き）

短編

ネタから真面目？です

若干ん？と思われた箇所があるかも知れませんが
理樹はギターが好き、っていうローカル設定です

ギャルゲーの主人公ですから特徴を削がれるのは仕方ないですけど
流石に無趣味って・・・
ってことで

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4974s/>

リトルバスターズ！ あの素晴らしい（21）をもう一度

2011年10月6日16時32分発行